

遠洋かつお・まぐろ地域漁業復興プロジェクト(気仙沼①)

事業実施者：日本かつお・まぐろ漁業協同組合

使用船舶名：第18八幡丸(409トン)

支援期間：平成24年5月1日～平成27年4月30日

(遠洋まぐろはえ縄漁業)

(取組の内容)

- 高品質化： 大型の活メバチマグロの船上でのロイン加工、凍結時間の短縮による身質の向上
- 燃油消費量削減： PBCF(プロペラ・ボス・キャップ・フィン)の導入、船内照明のLED化、燃油消費量モニターの設置による低燃費操業の実施。
- 流通販売： 漁業者自らが製品を販売、知名度向上、販売先拡大、消費拡大

都内の直販店



PBCF



ロイン加工品

(事業の成果)

- 船上ロイン加工により、GG(えらと内臓を取り除いた状態のもの)に比べ凍結時間を18時間短縮。同製品の多くは、色が良く、身質も良との評価
- 燃油消費量(848kl/年、3年平均)を計画より1%(9kl/年)削減
- 都内に本船の漁獲物を専門に取扱う直売店がオープンするなど、販路拡大に繋がった。